

榎原市立図書館だより

平成29年2月1日発行
第36号

榎の樹

いま、子どもの本に思う
こと

児童文学者

齋藤 惇夫 さん

P2~3

こんな本よんでんねん
裏表紙



橿原市立図書館

橿原市小房町11-5

TEL:
0744-29-2121

FAX:
0744-29-1011

http:
//www.city.kashihara.
nara.jp/tosyokan

ラストページ

時間

「千の風になって」を作詞作曲した新井満さんには、幾つかの顔がある。伴侶を亡くした友人を慰めるため作製した私家版CDが、瞬く間に広まったのが10年前。著作者として「尋ね人の時間」で芥川賞を受けたのは昭和63年、当時新井さんは電通の広告プロデューサーでもあった。▼「なぜ写真を写すのですか」写真展を鑑賞した登場人物が主人公に問いかける。「宇宙船が地球に似た惑星に漂着したとする。そんな時、どう思うだろう」「懐かしいと思うでしょうね」「写真を写すのはそんな時だ。再び出発すると、惑星は闇の彼方に消える。再び出会うことは、もうない。宇宙船では、時折写真を見て、ふるさとに似た星のことを思い出す……」▼終戦後の一時期、「尋ね人の時間」というラジオ番組があった。携帯電話もネット端末もなかった混乱期、離散した家族や大切な相手の消息を尋ねる番組に、人々が耳を傾けた。そこから示唆を受けた小説の「尋ね人…」は、ひとがひとを探し求めることの切なさや難しさを描いた。バブル崩壊の前夜、現代が抱える喪失感を静かに語った稀有な作品に、強い印象を持った読者もいただろう。▼戦後70年を過ぎ、昭和も遠くなった。ひとの営みには逡巡せず、時は流れる。先日、久々に掲載写真の新井さんに再会したが、かつての新進作家のシャープさは影を潜めて、温厚そのものの好々爺のお顔だった。

(編者)

こんな本読んでんねん

毎年市立小学校生の皆さんに紹介をお願いしているおすすめ書評「こんな本読んでんねん」、今年度は377作品の応募がありました。その中から5点を掲載します。広報かしはら2、3月号でも他の6点を掲載し、4月19日まで50余点を館内掲示します。

「ざんねんないきもの事典」高橋書店 今泉 忠明 監修
4年生 木上 風吾 さんの紹介

「地球にはたくさん生きものがいます。でも、その中にはざんねんなことのある動物たちがいます。『ワニが口を開く力はおじいさんに負ける』とあります。ですがかむ力は小型のトラックくらいの重さがかかるために、たいていの物はくだけます。」

なるほど！ 小型トラック並みの重量でかむ口が、開く力ではおじいさんに負けるとは！ワニの口の特性が、長所になるとともに、短所になることもあるのかもしれない。

「はなちゃん 12歳の台所」家の光協会 安武 はな 著
5年生 茶田 はるな さんの紹介

「はなさんが五歳で母をなくし、お父さんとふたりぐらしをしてゆく話です。1歳差なのに朝5時に起きて朝食を作ったり、お弁当を作ったりできて、すごいとそんけいしています」

なるほど！ そんけいとは、相手の行動などをうやまい、時には見習い自分に取り入れることでは。紹介者さんも、朝食作りやお弁当作りにチャレンジしてみたいかがでしょう。

「戦争と平和のものがたり」ポプラ社 西本 鶏介 編
6年生 西本 奏葉 さんの紹介

「戦争や平和についてのお話のつた作品です。『おはじきの木』では、父が娘をさがしに行きます。おはじきをしていた娘を思いうかべ、娘の死を悲しみます。お父さんをひとりにしてしまうような戦争はいけなしいと思いました。」

なるほど！ 戦争がなければ、娘さんもおはじきを楽しみながらすこやかに成長できたはず。多くの命をうばい不幸を生む戦争について、知ることが必要ではないでしょうか。

「近畿日本鉄道のひみつ」PHP研究所
6年生 関 優輝 さんの紹介

「路線のことや近鉄の歴史など様々なことが6章にわたって書いてあります。近鉄のグッズのことや裏話も書いてあります。鉄道が好きでないひとにもおすすめです。」

なるほど！ 地元の鉄道会社の歴史や裏話なら、鉄道自体には強い関心がないとしても、確かに気になりますね。よく利用する身近な近鉄について、再発見ができるのでは。

「ゆうすげ村の小さな旅館」講談社 茂市 久美子 著
6年生 平 小雪 さんの紹介

「小さな旅館に、はだの白い女性がお手伝いに来てダイコン料理をたくさん作って帰っていく。旅館のおかみさんが畑を見ると、うさぎが畑をあらしていた！ でもほんとうはダイコンを抜いていた。そしてあのはだの白い女性だったという話です。」

なるほど！ 動物が化身となって人間の前に現れるのは、伝説や昔ばなしにしばしばとりいられるスタイルです。野生の動物が身近で大切な存在だったからでしょう。

その他のおすすめ図書(抜粋)

「鑑真」ミネルヴァ書房 「うなぎ 一億年の謎を追う」学研教育出版 「さかさ町」岩波書店
「斜陽・人間失格・桜桃・走れメロス」文藝春秋 「大おぼさんの不思議なレシピ」借成社
「はだしのゲン」汐文社 「三国志」集英社 「のはらうた」童話屋 「ココロ屋」文研出版

表紙の写真

橿原市制60周年・かしはら万葉ホール・市立図書館20周年事業として、児童文学者 齋藤 惇夫さんの講演会を開催しました。詳しくは本紙2、3ページを参照ください。